

ことばに対する見方・考え方が高まるよさを実感させる国語科 学習指導

中 野 晶 仁〔鹿児島大学教育学部附属小学校〕

Thinking about Language Arts Learning and the Meanings of Words

NAKANO Akihito

キーワード：国語科、ことばに対する見方・考え方、学習指導、言語活動、交流（伝え合い）

目 次

- 1 はじめに
- 2 研究の背景
- 3 研究のテーマ
- 4 研究のテーマについて
- 5 研究の実際
 - (1) 学習指導内容の要件
 - (2) 学習指導方法
 - (3) 研究の実践
 - ア 実践の立場
 - イ 実践1
 - ウ 実践2
- 6 研究の成果と課題
- 7 おわりに

1 はじめに

鹿児島大学教育学部附属小学校に赴任して3年目になる。本校は、公開研究会などにおいて本県教育の指針となる使命を負っている。そのため、様々な場面で、教科教育のあり方について研究を深めていく必要がある。

本年度は、昨年度に引き続き、5年生を担当している。昨年度から今年度にかけて行ってきた国語の実践を、以下にまとめる。

2 研究の背景

(1) 一昨年の研究より

学校教育目標「夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成」を掲げ、学校作り研究がスタートした。国語科における学習指導要領改訂の経緯・国語科改訂の趣旨・要点を踏まえた上で、「自ら考え、伝え合う言語

活動の充実」を重点に実践を行った。その中で、言語活動についての指導事項の発達の段階を考慮した系統についての方向性を見だし、本校でとらえる言語活動を設定することができた。

(2) 昨年の研究より

確かな学力・豊かな心・健やかな体を調和的にはぐくむために、国語科でめざす子ども像を、「自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子ども」とした。一昨年度の「言語活動の充実」を土台に、

- ① 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の関連を図った言語活動の設定
- ② 共通体験活動の重視（他教科等・学校行事等との関連）
- ③ 相手意識・目的意識の重視

の3つの観点から、国語科年間指導計画の作成を行った。

(3) これまでの研究の成果と課題

昨年度までの研究によって、以下の成果と課題を得た。

ア 成果

- ことばの豊かさにふれさせる言語活動や授業外の取組をカリキュラムに位置付けたことで、より主体的にことばにかかわりながら認識を深めていく子どもの姿が見られた。

イ 課題

- ① 三つの視点を実際の学習指導において

は、まだ十分具現化できていない。

- ② 子どもの学習に対する興味・関心や子どもの言語生活との関連を踏まえた学習を展開してきた。しかし、他教科等や総合的な学習の時間、学校生活等において、国語科で習得した知識、技能が十分発揮されているとは言えない。

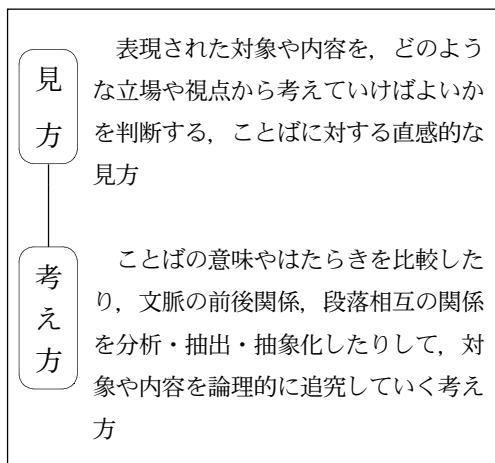
3 研究のテーマ

これまでの研究の経緯や成果と課題などから、学習指導においてめざす子ども像を達成するために、子どもたち同士の伝え合いを重視しながら、以下の研究テーマを設定した。

**ことばに対する見方、考え方が高まるよさを
実感させる国語科学習指導**

4 研究のテーマについて

「ことばに対する見方、考え方」を、以下のようにとらえた。



これらの「ことばに対する見方、考え方」が高まるよさを実感させることができるような学習指導をめざし、学習指導内容の見直しや、学習指導方法の工夫に取り組んだ。また、本校の研究の全体テーマである「学びの総合化」についても、課題②を踏まえ、各教科等の言語活動の中核をなす国語科学習指導となるように、他

教科等・学校行事等との関連を図りながら実践を行うことにした。

5 研究の実際

ことばに対する見方、考え方のよさを実感させるための学習指導内容、学習指導方法を以下のようにとらえた。

(1) 学習指導内容の要件

身に付けさせたい言語能力がよりよく育成されるように、学習内容を見直していく必要がある。そこで、次のような要件を備えているかという視点で学習内容を見直した。

- ① これまでの学習経験や生活経験と関連があり、これまで身に付けた知識、技能、ことばに対する見方、考え方を活用し、解決していこうと思える内容
- ② 集団での学びのよさを実感できる内容（伝え合う力を高める内容、多様な表現のよさに接することができる内容）
- ③ 多様な言語活動を通して体験的に学ぶことができることが期待できる内容
- ④ 日常生活に必要とされる対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができる内容
- ⑤ 学習を通して獲得した言語活動を行う能力を認識し、学習してよかったという有能感や日常生活にも生かせそうだという効力感を明確にもてる内容

また、見直した学習内容を生かすことができる言語活動を設定することも重要である。そこで、言語活動の設定に関して、以下の点に留意することにした。

- 課題の設定から解決に至るプロセスを含んでいる。
- 活動の目的・相手・場面などが明確である。
- 他教科等との関連を意識し、学びの総合化を図った総合的・横断的な学習指導を展開している。

開できる。

- 当該学年の指導事項を効果的に指導できる。

(2) 学習指導方法

ことばに対する見方、考え方のよさを実感させるための学習指導内容をよりよく学び取らせるために、「学習活動、学習過程、学習形態、場の設定、教師の働きかけ、評価方法」を具体化していく必要がある。その際、次の点に留意した。

- 書く活動を位置付けることによって、自分のことばを再考し、その正誤・適否を判断したり、付加、削除、修正を行ったりすることができる。
- 書く活動で書いた自分のことばを伝え合う活動に位置付けることによって、身に付けるべき言語活動を行う能力を子ども自身が意識することができる。
- 書く活動で書いた自分のことばを伝え合うことによって、自分のことばに対する見方、考え方に自信をもつことができる。
- 書く活動で書いた自分のことばを伝え合う活動を通して、「相手に分かってもらえた。」「認められた。」という気持ちをもつことができる。

また、単元や一単位時間の学習過程で、次のように学習指導方法を構想した。

課程	主な学習活動	学習形態・場	教師の働きかけ	評価方法
つかむ	1 話題となる対象と出合う。	個・全体	資料の提示	自己評価記述
みとおす	2 自分の思いをもつ。	個・全体	モデルの提示	自己評価記述
しらべる	3 自他の内容や表現のよさが分かる。	個・グループ	書く活動の位置付け	自己評価作品

ふかめる	4 よりよい表現のための考え方を身に付ける。	個・グループ・全体	伝え合う活動板書	自己評価相互評価作品
ふりかえる	5 伝え合うよさを実感する。	個・全体	伝え合う前後の各自のことばの比較	自己評価作品
いかす	6 日常生活への活用	個・全体	自己評価	自己評価作品

(3) 研究の実践

ア 実践の立場

(ア) 実践の基本的な立場

本実践では、「自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子ども」を育成するために創造した「ことばに対する見方、考え方のよさを実感させる国語科学習指導」が妥当であるかを、次の視点で検証していく。

A 前述の五つの要件に基づいた学習内容の設定

B 学習内容をよりよく学び取らせるために言語活動を充実させた指導方法

(イ) 実践の評価とその方法

実践の検証の仕方としては、子どもたちの授業中の発言、ノート、自己評価、相互評価、完成した作品等进行分析することで見取っていく。

イ 実践1

(ア) 単元 第5学年単元「物語を作ろう」

(イ) 目標

A 写真から連想した言葉を用いて物語を作ろうという意欲をもって取り組むことができる。

B 書いた物語を交流し、表現の仕方に着目して助言することができる。

C 想像した物語の構成を考え、表現を工夫しながら書くことができる。

(ウ) 指導計画 (全6時間)

過程	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の働きかけ
つかむ・みとらす②	1 1枚の写真を基に想像をふくらませ、試しの物語を書く。(要件1) 写真をもとに書いた物語を交流し、単元の目標を設定しよう。	思いをもたせるために、理科の天降川見学の写真を準備する。また、試しに作った物語を交流させ、書き方のよいところを見つけさせる。
	2 1枚の写真を基に物語の大まかな「筋」を考え、それに合う表現方法を考える。(要件2) どのような表現の工夫をして物語を書けばよいのだろうか。 (表現の工夫の視点) ①書き出し ②登場人物 ③あらすじ ④会話文 ⑤終わり方 ⑥方言 ⑦起承転結 ⑧出来事・事件 など	大まかな「筋」を考えさせるために、友達が考えている「筋」と比較させ、どのように書けばおもしろくなるか確認させる。その際、場面にあった表現の工夫を考えさせる。
しらべる①	3 表現方法を工夫しながら物語を作り、友達と伝え合う。(要件3) 表現の方法を工夫しながら物語を作り、友達と伝え合おう。	物語をおもしろくするにはどのように書けばよいのかに気付かせるために、友達と書いた物語を読み合わせ、おもしろいと感じた理由を伝え合わせる。
ふかめる①	4 複数の写真の中から自分が物語を書きたい写真を選び、物語の「筋」とそれに合う表現方法を考える。(要件4) 自分が考えた物語の筋に、どのような表現の工夫をすればよいのだろうか。	物語を書きたいという思いを高めるために、他教科等で学習している様子の写真を示し、児童に選択させて書かせる。また、思いを共有して書かせるために、同じ写真を選んだ児童同士をグループにし、「筋」や「表現」について助言し合わせる。
ふりかえる①	5 物語を作成し、読む人にとって分かりやすい物語になっているか助言し合う。(要件4) 自分が書いた物語は、分かりやすく書けているだろうか。	自分の作品が分かりやすくなっているか確認させるために、相互評価を行わせる。その際、表現の仕方に着目させて、助言をさせたり受け入れたりさせることで、よりよい作品にさせる。
いかす①	6 作成した物語の交流会を開く。(要件5) 完成した物語の交流会を開こう。	学んだ言語活動を、他教科等や日常生活に活かすために、これからどのような場面でこの学習が役に立つか話し合わせる。


(エ) 実際 (1 / 6)

A 目標

写真を基に表現を工夫して書いた物語を伝えたいという思いをもち、単元の目標を設定することができる。

B 本時の展開に当たって

物語を書きたいという思いをもたせるために、理科の天降川見学の写真を基に書いた教師のモデルを示す。また、表現を工夫して書くことのおもしろさに気付かせるために、友達と物語を読み合い、どのような工夫を行うとおもしろくなるかを考えさせる。

過程	形態	場	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ (□内…教師の言葉かけ)	子どもの意識
つかむ	全体	○ 理科の天降川見学の様子を想起させるために、その写真を数枚用意し提示する。	1 他教科等の学習を生かした本時の学習課題の設定 (1) 天降川の写真を見て思ったことや考えたことを発表する。 (2) 物語のモデルを読み、思ったことを発表する。 (3) 写真やモデルを基に、本時の課題を設定する。	○ 共通体験を事例とするために、理科の学習の写真を提示する。 この写真の天降川見学では、どのようなことがあったかな。 写真を見ると、すごい勢いで水が流れているようだね。水の音や色はどんな様子だったかな。	川の流れが速くて、理科の先生から「絶対に落ちないように気を付けて。」と言われたよ。「落ちたらどうする。」なんて、冗談も言ったね。
	全体	○ 物語を書きたいという思いをもたせるために、物語のモデルを提示する。	写真をもとに物語を作って伝え合い、単元の目標を設定しよう。	○ 「物語を作りたい」という思いをもたせるために、教師が作成した物語のモデルを提示し、本時の学習課題を設定する。 先生が作った物語は、何が足りないのかみんな考えていこうか。	水は、サラサラというよりも、ゴーとすごい音を立てて流れていたよ。色は、灰色だった。
みとおす	全体	○ 主体的に学習を進めるために、学習の流れを書いたボードを提示する。	2 学習課題解決のための流れの確認 ○ 物語をおもしろくする方法を考える。 ○ 物語を書いて、伝え合う。 ○ 単元の目標を設定する。	○ 見通しをもって主体的に学習させるために、学習の進め方を確認させ、黒板に掲示する。	先生の物語は起承転結がないなあ。事件を起こせば、もっとおもしろい物語が作れそうだな。
しらべる	グループ	○ 教師のモデルに足りないものを考えさせる。	3 写真を基にした試しの物語の創作 (1) 物語をおもしろくする方法を考える。 ・ 事件を起こす ・ 書き出しの工夫 ・ 五感を使った表現 ・ 人物の性格 (2) 写真を基に、共通の物語を書く。	○ 表現を工夫して書かせる視点をもちたせるために、教師のモデルを参考に、おもしろい物語を書く方法を考えさせる。	書き出しは、会話にしようかな。あのとき、「クマが出そうだね。」って友達と話していたよ。そして、本当にクマにおそわれる物語にしたら、ぞくぞくした物語ができそう。
	全体	○ 子どもたちから出された意見を板書きし、個別に書かせる際の参考にさせる。	4 互いの作品について思ったことの交流 (1) グループで読み合い、おもしろい表現に線を引かせる。 (2) 友達の物語のおもしろいところとその理由を伝え合う。	○ 物語を交流することの楽しさを感じさせるために、書いた物語を交流させる。 友達の表現の工夫を見つけてみよう。「こうしたらもっとおもしろくなるよ。」というアドバイスができるといいね。	山の岩が転がってくるのね。主人公が、川岸の罅穴に引っかかって転ぶようにしたら、もっとスリルがあるかも。
ふかめる	グループ	○ 机間指導を行い、よく書けている子どもを把握して賞賛したり、書き出せないでいる子どもと書き出しの一文を考えたりする。		○ 単元の目標を設定させるために、物語を作った感想を話し合う。 「表現方法を工夫した物語を書く」と、おもしろい物語になるんだね。これは、今回の学習の目的だね。物語は、だれに伝えたいかな。これらをまとめて、自分の学習の目標を設定してごらん。	わたしも書き出しを工夫したり、比喩を使ったりして物語を作りたいな。できた物語は、同じ学級の友達に読んでもらいたいな。
ふりかえる	全体	○ 単元の目標を話し合わせ、出された意見をまとめて黒板に板書きする。	5 単元の目標設定 目的…写真を基に物語を作る 相手…学級の友達 1枚の写真から表現を工夫した物語を作り、学級の友達と伝え合おう。	○ 学習したことを振り返らせるために、楽しさを数値化させ、その理由と今日の学習の感想を記述式で書かせる。 今日の学習の楽しさを、4点満点で記入して、その点数にした理由を書きましょう。その後、今日の学習で新たに分かったことや、これから取り組んでみたいことを書きましょう。	点数は4点。同じ体験をした友達と交流したおかげで、五感を使った表現の仕方が分かったから。次の時間は、書き出しにこだわって書いてみたい。
いかす	個	○ ポートフォリオ的な学習振り返りカードを用意し、記入させる。	6 自己評価による振り返り ・ 学習の楽しさの点数化とその点数をつけた理由の記述 ・ 学習の感想		

(4) 考察

本単元では、「物語を創作する」という言語活動を行った。その際、他教科等の学習の写真を基に物語を創作させたことで、もっと知りたかったことを物語にしたり、実際に活動したことを想起して表現の工夫に生かしたりすることができた。また、共通体験のため、交流の際に共感的に物語を理解し、積極的にアドバイスすることができた。

「わんわんの中の神様」ので学習しよう
に人柄を設定して書いているから親しみを
もてよう。

「どんどん進んだ」を勇気を出して進んだ
に変えることで、暗くこわい様子が伝わっ
てくる。

見学の説き聞かされた「ボトン」という音
が加わり、落っていく様子が分かりやすくな
った。

「起承転結」を意識して「行空けたから、場
面が変わると分かったよ。」

左記は、試しの物語と、友達との交流後に作った物語である。交流での友達からのアドバイスや、認められて自信をもったことで、考えを深めてことばを選び直し、物語に生かす姿が見られた。

単元の終末では、「表現を工夫してもっと書きたい。」「伝え合って物語を作るのは、作品がよくなり、楽しかった。」など、伝え合うよさを実感した発言が多く見られた。さらに、総合的な学習の時間の発表原稿を作る際や、日頃の日記などに表現の工夫をする児童が多くなるなど、他教科等や日常生活でも生かすことができた。

これらのことを通して、ことばに対する見方、考え方が相互に作用して高まってきた。よって、学習指導を充実させることは、子どもたちにことばに対する見方、考え方が高まるよさを実感させる学習指導に有効であったと考える。



【伝え合って学習している様子】

ウ 研究の実践2

(7) 本実践では、以下の学習指導案を作成し、研究授業を行った。

第5学年 国語科学習指導案

は組 男子 19 名 女子 20 名 計 39 名

指導者 中野 晶仁

1 単元 筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう

(教材「見立てる」「生き物は円柱形」光村5年)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第4学年「段落のつながりに気をつけて読もう」の学習で、接続語や文末などを押さえて段落の要点を抜き出したり、まとまりごとに小見出しをつけたりしながら段落相互のつながりを考えて文章を読む能力を身に付けてきている。また、「材料の選び方を考えよう」の学習で、中心となる語や文から相互の関係を考えながら文章を正しく読もうとする態度を身に付けてきている。さらに、説明的文章に対して、筆者がどのようなことを読者に伝えたいのかを読み取り、それに対する自分の考えを表現したいという願いをもっている。

そこで、本単元では、目的に応じて因果関係から文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる能力や、自分の考えを分かりやすく伝えようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう」(教材「見立てる」「生き物は円柱形」)を設定した。

この学習は、筆者の意図を考えながら読んだり、筆者の主張を受けて自分の考えを明確にするために読もうとしたりする「文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「見立てる」は、見立てるという行為が想像力に支えられており、その想像力は自然や生活と深く関わっているということを述べている説明文である。また、教材「生き物は円柱形」は、生き物が円柱形をしているという共通点から、その原因や円柱であることの利点などを述べており、因果関係や文末表現から筆者の主張がとらえやすい説明文である。「あや取り」や「生き物」などの身近なものが例としてあげられている両教材は、「はじめ」と「おわり」に述べられている筆者の主張に対する自分の考えをもちやすく、この期の子どもたちに適している。さらに、両教材とも、文章構成や指示語・繰り返し使われる言葉などから要旨をとらえるのに適した教材である。

そこで本単元では、文章の構成をつかみ、筆者が何を伝えたいのか読み取ったことを基に、自分の考えを発表することを目的とする。その際、まとめの部分だけに着目することのないように、事実と感想、異見を押さえながら要旨をとらえさせることで、筆者の考えに対する自分の考えをまとめさせていくことが大切であると考えている。

具体的にはまず、理科の学習で共通体験して育てているエンドウやメダカの写真などから生き物の形に着目させた上で「生き物は円柱形」を読ませ、どうして円柱形がふさわしいのかという疑問をもたせ、単元への興味・関心を高める。そして、教材文を通読し、大まかに内容をとらえさせて上で「はじめて知ったこと」や「もっと知りたいこと」などを自由に話し合わせることで、子どもたちに生き物について他の人にも知らせたいという思いをもたせ、単元の目標を設定させる。

次に、教材「見立てる」について、それぞれの段落の要点をつかんで、意味段落の内容をまとめさせ、全体の要旨をとらえさせる。その後、教材文「生き物は円柱形」についても同様に行わせる。その際、要点をとらえやすくするために、新聞形式にまとめさせる。そして、それぞれのまとまりで読み取った要点を基に、要旨をリード文としてまとめさせたり、コラム欄に自分の考えを書かせたりする。

さらに終末では、作成した新聞を基に自分の考えを紹介し合う活動を通して、自分との共通点や相違点に気付かせることで、学習の有用感や成就感を感じさせたり、本単元の学習が今後教科内や他教科等でどのように生かすことができるかを話し合ったりする活動を行わせる。

このような学習を通して得られる能力や態度は、事実と意見との関係を押さえて自分の考えを明確にしながら読み、文章全体の構成を考えながら表現しようとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や教材に対してどのような興味・関心をもっているかについて調査した結果は、次のとおりである。(数字は人数を表す。)

①「生き物は円柱形」の初発の感想				③要旨の把握	
・「生き物は円柱形であるということに驚いた (26)				・生き物はみな円柱形であるということ(20)	
・チョウや木の葉も円柱形とはじめて知った。(5)				・生き物は多様であること(9)	
・何でも円柱形ではないと思う。(4)				・動物には共通点が多いこと(5)	
・生き物の他の共通点も知りたい。(3)				・生き物はおもしろいということ(3)	
・筆者の考えはおもしろい。(1)				・生き物をおそれ、うやまい、感謝すること (2)	
②意味段落ごとの要点の把握(十分：◎―○―▲：不十分)				④本教材の他教科等との関連	
はじめ	◎ (2)	○(24)	▲ (13)	・理科(24) ・算数(12) ・道徳(2) ・総合(1)	
中 1	◎ (6)	○(12)	▲(27)	⑤やりたいまとも方 (複数回答)	
中 2	◎ (2)	○(28)	▲(9)	・新聞(19) ・本の帯 (9) ・紙芝居(9)	
おわり	◎ (7)	○(26)	▲(6)	・報告書(6) ・ポスター(5) ・絵本(5)	
⑥難語句					
・多様 (11) ・翅脈 (10) ・独自性 (8) ・円柱形 (6) ・うやまう (5) ・葉脈 (4) ・角柱 (4)					

多くの子どもたちが、教材文の生き物が円柱形であるということに関心をもっている。しかし、現段階では、筆者の主張の例としてあげられている「円柱形」という形についての感想が多く、筆者の主張に対する感想を述べている子どもは少ない。(①) これは、要旨をとらえたり、それに対する考えをもったりする学習の経験が少ないためであると考え。意味段落の要点の把握については、十分把握できている児童は少ない。(②) これは本教材を一読しただけでは十分に内容を把握できなかったためであると考え。また、要旨としてあげられているものは、筆者が伝えたいことを述べるための例として挙げている「円柱形」をそのままとらえている子どもが多い。(③) 意味段落の内容の要点の把握がしつかりできておらず、そのため要旨についても漠然としており、筆者からの投げかけに気付かなかったことや、因果関係などをまだ理解できていないためであると考え。

また、本教材は理科や算数の学習と関連があると感じている児童が多い。(④) このことは「生き物」や「円柱形」という言葉から連想されたものであると考える。また、「生き物」の方が人数が多いのは、「円柱形」がまだ未履修であるためであり、子どもたちの経験と結びつかなかったためであると考え。まとめ方については「新聞作り」を挙げている子どもが多い。(⑤) これは、これまでの学習から、新聞作りを行うことが本の帯やポスターなどと比較して、説明的文章を読んでまとめる際に、文章構造をとらえたり要点を把握したりすることに便利であることに気付いている子どもが多いためであると考え。難語句には、生き物などに関する専門的な用語が挙げられている。(⑥)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちがそれぞれ要旨をとらえ、自分の考えを深めたり広げたりすることができるように、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考え。

ア 生き物が円柱形であるという筆者の主張の例に目を向けさせて読み取らせたり、単元の目標を設定させたりするために、導入の段階で円柱形をしている生き物の写真を示し、なぜそのような形をしているのかという疑問をもたせたり、教師が作成した新聞のモデルを提示して見せたりする。

イ 筆者の主張に対する自分の考えを広げたり深めたりさせるために、作成した新聞を基に自分の考えを交流させる際に、どうしてそのような考えをもったのかという理由や、相手の考えに対する感想を述べさせたり、自他の考えを比較させたりする。

ウ 学習の有用感や成就感を味わわせ、学びの総合化を図るために、本単元の学習が今後他教科等や日常生活のどのような場面で生かされるか話し合わせ、この学習で身に付いたことを振り返らせる。

3 目 標

- (1) 自然界の生き物の特徴に関心をもち、筆者が読者に投げかける主張を明らかにしようとしながら読もうとすることができる。
- (2) 生き物の形が円柱形になる理由を考えながら、内容のまとまりをとらえることができる。
- (3) ア 筆者の考えを受けて、自分の考えを書くことができる。
イ 文章構成を把握し、的確に読み取った内容から要旨をとらえることができる。

4 指導計画（全7時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす①	理科で育てている植物も、茎の部分を思い出すと円柱形をしているよ。	1 内容への興味の喚起と学習目標の設定 『生き物は円柱形』を読んだ感想を友達と伝え合おう。 ・初発の感想 ・単元の目標設定	○ 教材への興味・関心を高めさせるために、写真で見た生き物の形に注目させることで教材文に対する想像を広げさせ、教材文を通読した上で、共感・納得できることや疑問点などを自由に話し合わせる。（理科との関連）
しらべる①	要旨は、最初と最後の段落に多くかいてあるのだな。	2 「見立てる」の読み取り 『見立てる』で筆者は、どのようなことを伝えたかったのだろう。 ・説明文の構造 ・意味段落の要点 ・要旨のとらえ方 ・自分の考え	○ 新聞にまとめることの分かりやすさやについて考えさせるために、新聞のモデルを提示し、読み取った内容や筆者の主張を新聞に表すことを提案する。 ○ 要旨のとらえ方をつかませるために、「見立てる」の文章構成をとらえさせ、各意味段落の要点をまとめさせる。
ふかめる④	説明文の書かれ方が分かってきたぞ。	3～6 「生き物は円柱形」の読み取り 3 『生き物は円柱形』の文章構成をとらえ、学習計画を立てよう。 ・説明文の構造 ・各意味段落の役割 4 「生き物にとって円柱形は、どのような利点があるのだろう。」 ・「中1」・「中2」の要点 5 『はじめ』と『おわり』の部分には、どのようなことが書かれているのだろう。 ・「はじめ」・「おわり」の要点 6 『生き物は円柱形』で、筆者はどのようなことを伝えたかったのだろう。 ・要旨の把握 ・筆者の主張に対する自分の考え	○ 段落どうしのつながりに気を付けて意味段落まとまりをとらえさせるために、生き物が円柱形である因果関係をとらえさせたり、文末表現や接続語などに着目させたりし、根拠を明らかにして内容を的確に押さえさせる。 ○ 要旨をまとめさせるために、各意味段落におけるキーワードやキーセンテンスを話し合わせて明確にし、それを「生き物は円柱形新聞」に意味段落ごとにまとめさせる。
ふかめる④	「円柱形」も、生き物の多様性の例の一つなんだな。		○ 本文の「はじめ」と「おわり」の叙述に十分着目させ、これまでまとめてきた意味段落の要点もふまえさせながら、多様な生き物の共通性のおもしろさや、生き物に対して敬う気持ちを抱いたりすることが大切であることをとらえさせる。
ふかめる④	くり返し使われている言葉には、筆者の主張が述べられていそうだな。		○ 形式的な要旨の理解にとどまらず、自分の言葉で要旨をまとめさせるために、要旨を新聞のリードとしてまとめさせる。
ふかめる④	今までの要点を新聞にまとめてきたから、要旨がまとめやすいぞ。	7 学習のふり振り返り・評価 「自分の考えを広げたり深めたりするにはどうすればよいのだろう。」（本時） ・自分の考えの交流 ・今後に生かせること	○ 筆者の主張に対する自分の考えを広げたり深めたりさせるために、友達の考えと交流させ、比較や関係付を基に話し合わせ、新聞のコラム欄にまとめさせる。
ふかめる④	日頃から、相手が何を伝えようとしているのか考えて文章を読むようにしていきたいな。	要点を記事としてまとめ、リード文に要旨を書いた新聞を基にすると、筆者の考えがとらえやすくなり、自分の考えをもつことができた。	○ 学習してきたことを基に、筆者の考えについて自分の考えをまとめることができたかを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させ、その理由や考えたことを書きせる。（自己評価） ○ 本単元の学習を今後に生かすために、どのような場面で役立てることができそうか話し合わせる。（他教科等、日常生活との関連）

5 本 時 (7/7)

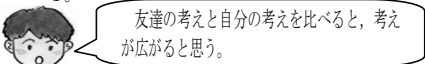
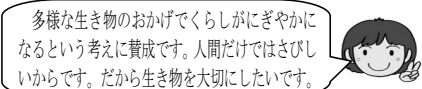
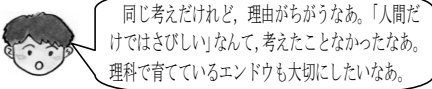
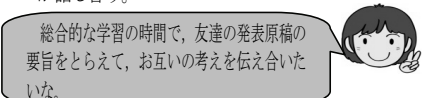
(1) 目 標

筆者の考えについての自分の考えを伝え合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

自分の考えを広げたり深めたりさせるために、**自分と友達のことを比較させることで気付いた共通点や相違点を話し合わせる。**

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 生き物は円柱形新聞のリード文から考えたことのモデルを基に話し合う。 (2) 自分の考えを伝え合うことに、課題意識をもつ。 友達と伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしよう。	(分) ↑ 5	○ 課題意識をもたせるために、「自分の考え」のモデルを示し、児童個人の考えと比較させたり関係付けたりさせる。 ○ 考えを広げたり深めたりすることのイメージをもたせるために、モデルと比較した際に出された意見を、「広がった考え」「深まった考え」に分類して板書し、学習課題を設定する。 ○ 見通しをもって主体的に学習させるために、学習の進め方を確認する。
	2 学習の進め方を確かめる。 ○ 自分の考えを伝え合う。 ○ 伝え合って考えたことを書き加える。 ○ 広がったり深まったりした考えを発表する。	5	○ 考えを広げたり深めたりすることのできる伝え合いの方法を探らせるために、教師と児童とで伝え合いの例を示し、考えを伝えた後に相手に質問をしたり感想を言ったりする活動を加えることを確認する。
しらべる	3 「生き物は円柱形」の要旨を基に考えたことを伝え合う。 (1) 自分の考えを広げたり深めたりする方法を考える。 	5	◎ なかなか伝え合いがうまくできない子どもたちには、担任と一緒に相手の考えの感想を考えたり、共通点や相違点がなかったか聞いたりする。
	(2) 考えを伝え合い、新たに考えが広がったり深まったりしたことを書き加える。 	2 5	○ 考えの広がりや深まりを実感させながら伝え合いを行わせるために、友達と伝え合った直後に新聞に書き加えさせ、次の相手には書き加えたことも合わせて伝えるようにさせる。
ふかめる		2 5	○ 他教科等や日常生活との関連を図らせるために、伝え合いの中で生き物や自分の生活などについての考えを発表している児童を称賛し、価値付ける。
	4 学習のまとめを行う。 自分と他者の考えと比べたり、関係のあることを見つけたらよい。	1 0	○ 学習をふり返らせるために、本時の学習でどのような伝え合いをしたら考えが広がったり深まったりしたかを考えさせる。
ふりかえる・いかす	5 自己評価を行う。 (1) 本単元の学習をどのように役立てることができるか話し合う。 	1 0	○ 学習を今後に生かす意欲を高めるために、自分の考えの伝え合いをしている中で出てきた他教科等との関連や、新聞作りを通して身に付いてきた要旨のとらえ方などを想起させる。
	(2) 自己評価を行う。	↓	○ 学習したことを振り返らせるために、楽しさを数値化させ、その理由と今日の学習の感想を記述式で書かせる。

(イ) 考察

本単元では、他教科等との関連を図るために、導入の段階で「円柱形をしている動物」を扱い、算数や理科との関連を図った。形に着目させたことで、円柱形のよさについて追究していこうとする意欲が高まった。そのため、要旨をとらえる際に、教材文に書かれている「円柱形は強い」「円柱形は速い」といったキーワードを捉えさせたり、生き物の形の多様さに着目させたりすることができた。

また、言語活動として、新聞形式に学習したことをまとめていくことにした。このことで、説明文の構造を捉えやすくなり、友達の作品との交流がスムーズになったりする効果があった。新聞には、コラム欄を設け、筆者の考えに対する自分の考えを書かせた。単元の終末にコラム欄を基に交流させることで、児童の考えを広げたり深めたりすることができた。

学習の最後に、再度他教科等との関連を図り、「この学習を今後どのような場面で生かすことができるか。」を考えさせるところ、「生き物についてさらに深く知りたくなった。調べたことを、また新聞形式で分かりやすくまとめてみたい。」「本を読むときに、筆者がどのようなことを伝えようとしているのか意識するために、段落の関係を考えて読むようにしたい。」「様々な場面で、友達と比べながら伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしていきたい。」など、学習したことを具体的な場面で生かそうとする姿が見られた。

これらのことを通して、児童が意欲的に自分の考えをことばで話したり、書いたりすることができ、友達との交流で共感したり、考えを広げたり深めたりすることの楽しさを味わう姿が見られた。よって、本実践は、子どもたちの「ことばに対する見方・考え方が高まるよさを実感させる国語科学学習指導」として、有効であったと考える。

6 研究の成果と課題

本研究を通して、次の成果と課題があった。

(1) 研究の成果

- 国語科カリキュラム創造の視点を生かし、ことばに対する見方、考え方が高まるよさを実感させる国語科学学習指導の基本的な考え方を明らかにし、学習内容を設定し、指導方法を具現化することができた。
- ことばに対する見方、考え方が高まるよさを実感させる言語活動を充実させることで、より主体的にことばにかかわりながら、見方、考え方を高めていく子どもの姿が見られた。

(2) 研究の課題

- 本年度の研究をさらに実践的に進める中で、他教科等・日常生活との関連をさらに明らかにし、学習内容や指導方法をより具体化していく必要がある。
- 明らかになった学習指導について、実践を通して妥当性を検証し、よりよい学習指導に改善していく必要がある。
- 学習に対する達成感や成就感をもたせたり、児童の思考の過程を見取ったりすることができる評価のあり方について、さらに研究を深める必要がある。

7 おわりに

本研究では、国語科学学習を通して、「ことばに対する見方、考え方が高まるよさを実感させる国語科学学習指導」をめざして取り組んできた。一定の成果は得られたとも考えられるが、課題点も多い。今後、子どもたちのために、さらに指導法を工夫し、「分かった。」「できるようになった。」という喜びを味わわせることができる授業を模索し、実践していきたい。